

1. 視察目的

現在、文部科学省と厚生労働省は共同指針として、児童の放課後の居場所確保のために、放課後児童クラブと放課後子供教室の一体的な運用を推進している。本市においても、甲府モデルとして、子ども達の放課後の新たな居場所作りに注力、研究しているところである。

また、中核市となった本市は、人口減少社会の中で地方都市の在り方のひとつとして、連携中枢都市圏構想など、広域連携の推進に注力している。

そこで、同じく中核市であり山陰地方有数の都市である島根県松江市における先進的な子育て環境の充実に向けての取り組み、および広域連携への取り組みを調査・研究することは、本市の政策形成に大変有効なものである。

2. 視察日時：令和2年10月29日（木）、30日（金）

3. 視察都市：島根県松江市

人口：20万2,159人（令和1年9月）→20万846人（令和2年9月）

年少人口（0～14歳）：26,781人（13.2%）

生産年齢人口（15～64歳）：116,171人（57.5%）

老年人口（65歳以上）：59,207人（29.3%）

4. 視察内容

(1) 子育て支援

① 松江市子ども・子育て支援事業計画

【基本理念】 ～ 『松江で育ってよかったな』と思われるまちへ ～
みんなで子どもを育む“子育て環境日本一・松江”

【基本目標】 1□子どものための教育・保育の充実

2□子どものための保護者支援

3□子どものための安全・安心の環境づくり

4□地域や企業とともに取り組む子育て環境の向上

② 幼保一元化の推進

認定こども園及び幼保園は保護者の就労状況及びその変化等によらず柔軟に子どもを受け入れ、安定した子育て・子育て環境を提供。認定こども園及び幼保園の利用を希望する保護者がそれらの施設を選択することができるように、幼保一元化の施設整備を促進。

③ 保幼小中一貫教育

子どもたちの健やかな成長を図るために地域の教育力を生かし、幼児期から義務教育9年間の発達を見すえて、一貫した指導体制を構築。

学園（中学校区）ごとに、地域や児童・生徒の実態を踏まえ、それぞれの校区の特色を生かし、地域・保護者と協働して小中一貫教育を推進。

④ 放課後子ども総合プラン

全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるように児童クラブと放課後子ども教室推進事業を実施。

一体型の児童クラブ及び放課後子ども教室を令和6年度までに24箇所設置。

(2) 広域連携（中海・宍道湖・大山圏域市長会）

① 目的

中海・宍道湖・大山圏域の構成市の行政上の共通課題等について連絡調整を行い、圏域の総合的・一体的な発展の推進を図る。

② 構成

構成員：米子市・境港市・松江市・出雲市・安来市

オブザーバー：大山圏域 7 町村

③ 概要

鳥取・島根

中海・宍道湖・大山圏域市長会

第 2 期 地方版 総合戦略

位置づけとねらい

県境を越えた広域連携

- 日本海側を代表する拠点
- 東アジアのゲートウェイ
- 定住人口の拡大および山陰地方における人口流出のダム効果

基本目標

圏域人口 60 万人の維持

- 産業集積による仕事・雇用の創出
- 地域資源（ヒト・モノ）の発掘と磨き上げ、そして国内外への発信
- 世界に誇れる歴史・文化のさらなる活用

1 国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成

- 東アジアをはじめ世界に向けたゲートウェイ機能のさらなる活用
 - ・国際定期航路の活用（空路：米子／香港、上海、ソウル便）（海路：境港～東海～ウラジオストク、境港～釜山、境港～上海航路）
- インド（ケララ州）・台湾（台北市）との経済交流の拡大
 - ・インドでのプログラミング言語 Ruby を介した SE 人材の育成・確保
 - ・輸出や交流人口の拡大
- 圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展（安来の特産物技術を生かした食品等製造産業、境港の水産加工業、松江の IT 産業、米子の医療、出雲の電子部品をはじめとする製造業、大山の農畜産業）
 - ・地域を支える「ものづくり」企業への支援
 - ・地産外消の推進
 - ・圏域内高等教育機関との連携
- 国内およびインバウンド観光の推進
 - ・観光客材の書き上げと情報発信
 - ・観光地づくりのための組織体制強化

2 未来をひらく交通ネットワークの形成

- 2つの湖を介する「8の字ルート」等の早期完成
 - ・境港／出雲道路、境港／米子道路、中海架橋、江府三次道路、米子道および山陰道の4車線化等の早期実現
- 重要港湾港の利便性向上
 - ・港湾施設および国内外航路ネットワークの充実
- 新幹線ネットワークの整備
 - ・中国横断新幹線（伯備新幹線）、山陰新幹線の整備促進
- 航空路線の充実
 - ・両県と連携した圏域内（出雲・米子）空港の既存路線利用促進と新たな定期路線の開設

3 恵まれた生活環境を生かした圏域の形成

- 圏域への移住・定住の促進
 - ・Uターン・Iターンなどの取り組みの推進
 - ・関係人口の創出
 - ・次代を担う人材育成
 - ・多文化共生社会の推進
 - ・公共施設の共同利用の推進
- 自然環境の保全と活用
 - ・中海・宍道湖・大山ならびに日本海、島根半島、ジオパーク等の自然を活用した交流人口の拡大
- 健康長寿圏域の形成
 - ・圏域内医療・福祉機関との連携
- 圏域内公共交通の利便性向上
 - ・様々な需要に応じた交通サービスの検討

住みたくなる圏域づくり

山陰 まんなか 県民生活

県境を越えた広域連携による住みたくなる圏域づくり

海外との交流拡大による地域経済の活性化



市場拡大のほか、IT 人材等の育成・確保などを旨とし、インド（ケララ州）や台湾（台北市）との交流を強化していきます。



都市部へのアクセス性の向上

- ✓東京・大阪等の大都市圏へのアクセスが容易な2つの空港
- ✓山陽・四国への高速道路も整備

本圏域は自然豊かで穏やかな暮らしを満喫できる環境であり、都市部へのアクセス性も優れています。



心豊かに、安心して暮らせる環境の活用

① 充実した子育て環境

圏域の特産児童はゼロとなり、子育てしやすい環境が整っています。

② 国内トップレベルの医療・介護体制



③ 豊かな自然や歴史文化に恵まれた地域

国立公園 大山ならびに島根半島・宍道湖中海ジオパークなど自然環境が豊か。また、弥生時代の遺構、たたら製鉄や城下町の風情が漂う歴史文化が息づく圏域です。



5. まとめ、所感

甲府市とほぼ同程度の人口で、同じく地方の県都である松江市。超高齢化、少子化、人口減少と直面する課題は同じである。むしろ立地的には、大都市圏から離れた大変厳しい条件であることは否めない。

その松江市で行われていた政策は、決して受け身ではなく、工夫を凝らし、積極的に連携し、限られた中で最大限の効果を目指す意欲的なものであった。

子育て環境においては、教育委員会が主導的な役割を果たしながら、関係部局と連携して、保幼小中の一貫教育、一体的な放課後の居場所作りなどを実践していた。本市では、まだ検討段階の施策も多く、子育て環境の充実に対する全市的な意識レベルの違いを感じた。

広域連携に関しては、周辺自治体との連携というだけでなく、県を越えた圏域を形成していた。当然課題もあるが、少なくとも産業、観光という側面において、その効果は明らかであった。今後さらに発展、成熟することによって、大都市に依存しなくても地方が活力に溢れる可能性を大いに示すものであった。

現在の社会情勢、想定される未来を考えると、地域間競争の中で本市が生き残り、より輝けるように、先進事例を素直に参考とすることも必要なのではないかと強く感じた視察だった。

